



曲 豆 友

第178号

<https://bussei.gr.jp/>

Buzanbussei
Buyu

題字 浅井侃雄 梶下



退任挨拶

真言宗豊山派仏教青年会第三十四代会長

東京二号 観音寺

木村 修明

日頃より、豊山仏青の活動に対し、深甚なるご理解と、多大なるご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。

さて、令和四年四月に引き継ぎました真言宗豊山派仏教青年会会長としてのお役目でしたが、この度、二年間の任期満了に伴い、三月末日をもちまして退任の運びとなりました。在任中には、豊山派内御重役の皆さま、宗内外諸大徳の皆さま、そして関係各位より賜りましたご教示ご協力に、心から感謝申し上げます。

顧みるに、就任当初の社会状況は、まだまだコロナ禍でありながらも、コロナ禍以前の生活をとり戻す試みを行い始めていたところでした。その様な世相を受けて、第一回理事会は現地参加とオンライン参加のハイブリッド開催と致しました。理事会は、第二回以降は現地参加のみとなりましたが、講習会や執行部会、実行委員会等はオンライン開催を大いに活用しました。このオンラインを用いた開催は、先代の鈴木執行部がコロナ禍に確立させた開催方法で、全国組織である豊山仏青に於いては、今後大きな資産になると思っています。

そして、世間は政府主導のもと経済活動を急速に再開し、多人数での交流も段階的に容認され、コロナ禍で止まっていた社会がアフターコロナを掲げて大きく動き出し、行き止まりした。折しも、我々真言末徒にとりましては、宗祖弘法大師御生誕千二百五十年を翌年に迎える年で、真言宗豊山派としても鈴木常英宗務総長のもと、弘法大師御生誕記念事業が推し進められており、豊山仏青といたしましても微力ながら宗派にご協力させて頂くと共に、延期されていた全国結集開催の準備を進めました。

こうして迎えた弘法大師御生誕千二百五十年正当年である令和五年。五月には宗派の御生誕事業の中心行事であった慶讃法要に承仕補として参加し、十一月には、総本山長谷寺にて、真言宗豊山派仏教青年会全国結集の開催に至りました。この結集は、オンラインを併用せず、現地に集まる従来通りの結集となり、実行委員長には、コロナ禍で思う様な活動が出来なかつた鈴木真人前会長を、慣例を曲げてお迎えさせて頂き、実行委員は執行部を中心に、それぞれの部門に強みを持った会員諸師を招聘し、実行委員会一丸となって開催いたしました。

本堂で執り行われた法要には、総本山長谷寺化主浅井侃雄院下、川俣海淳寺務長を始め、執事の皆さま全員に御出仕頂く栄を賜り、講演では、令和の時代を見据えた寺院運営の為のSNS活用方法を学び、結集テーマである「心機一転」が様々な角度から表現されました。御来賓としてお越し頂いた全真言宗青年連盟の鈴木宏章理事長、世界仏教徒青年連盟(WFBY)の村山博雅会長をはじめとした皆さまからもお褒めの言葉を授かり、改めて結

集の素晴らしさ、人と人とが交流出来ることの有り難さを思いました。

尚、この結集では、弘法大師御生誕千二百五十年を記念して、豊山仏青から御本山に「楽太鼓」一張を奉納させて頂きました。この奉納に際して御協賛くださいました全国の豊山派御寺院さま、会員諸師、そして地区仏青さまに、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。また、余談ではありますが、結集の前日準備の際に、長谷の御山に珍しい二重の虹がかかりました。その虹を見ながら、我々が再び集える様になったことを、お大師様や、長谷の観音様も喜んで下さっているのかなと感じました次第です。

私が会長を勤める二年の中で、この結集が最も大きな事業でしたが、他にも、能登半島地震の発災で、益々その重要性が確認された災害対策講習会(重機講習会)の開催や、都合四回のオンライン講習会も執り行いました。内容は、コロナ禍や人口減少、長引く不況など、様々な要因から逆風吹き荒れる仏教界の中で、寺院運営のヒントや新たな気付きを得て貰うべく設定されており、会員諸師ならば、アーカイブとしてYouTubeで視聴することが出来るので、ぜひご覧頂きたく存じます。

また、仏教を礎とした国際交流の一環として、豊山仏青六十周年記念事業でご縁を結んだタイ国に赴き、世界仏教徒連盟(WFB)本部と暁の寺ワット・アルンを表敬訪問いたしました。

こうした様々な事業を成し遂げる事ができたのは、門屋昭譽、白井有成、関道俊、島田希保の四名の副会長を始め、渡辺隆正、月門英真の両監事、木下栄海総務次長、平井俊和会計次長、若井義邦事業次長、木村修廣広報次長の次長たち、そしてこの執行部の扇の要である北林隆佳事務局長による御尽力の賜物に他なりません。また、執行部に対して深い理解を示して支えてくれた全国四十七支所の会長理事さま、各種事業を支えてくれた事務局員の皆さん、お手伝いに来てくれた学生の皆さん、二年間本当にありがとうございました。衷心より御礼申し上げます。

結びとして、私は仏青でしか得られない経験が有ると思います。ですから、この様な社会状況だからこそ、若手僧侶の皆さんには、ぜひ仏青活動に参加して頂き、仲間を作り、共に考え、共に学び、皆さんでこの逆境を乗り越える方法を見つけ出して欲しいと思います。そして、この伝統ある豊山仏青を、より発展させて行ってくれることを望みます。

私の後を引き継いで頂いた茨木祐賢会長ならば、それが出来るかと確信しております。全国会員諸氏に於かれましては、どうか茨木会長を支え、盛り立てて頂くことをお願い申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。

真言宗豊山派仏教青年会

第四十九回全国結集

総本山長谷寺大会に参加して

東京一号 愛染院 佐々木慎哉

令和五年十一月十四日に総本山長谷寺にて開催された真言宗豊山派仏教青年会第四十九回結集「心機一転 | Reboot」に参加させていただきました。

十一月とは思えない夏日が続いたあと訪れた急な寒波に加え、冷たい雨が降り天候が心配されましたが、当日は雨が止み寒さも多少和らいだ中での開催となりました。

大講堂での開会式の後、昼過ぎから長谷寺本堂にて法要を行いました。法要の次第は奠供、願文、般若心経、観音経偈文、十一面秘讃、諸真言等。そのうち般若心経と観音経偈文は太鼓付きでお唱えしました。ここでは今回、弘法大師御誕生正当年を記念して奉納された楽太鼓が用いられました。法要後にはこの楽太鼓を近くで拝見させていただきましたが、胴には長谷寺を象徴する牡丹が描かれた美しいものでした。今後、毎朝の勤行や開帳法要で活用されるそうです。

個人的には長谷寺の本堂でお経を唱えるのは宗派指定研修以来であり、当時は何もかもが不慣れで大変だった思い出が蘇るとともに、総本山長谷寺の本堂で100人近い人数での法要にふたたび参加できる喜びを感じました。

その後、大講堂に移り「お寺の魅力の伝え方」寺院×SNSの今〜というタイトルのもと、長谷寺教務部主事の瀧口光記師と岡寺住職代務・副住職の川俣海雄師をお迎えし、かねてより情報発信や布教に活用されてきた寺報や掲示板のように、近ごろ流行しているSNSを活用している両師にその実例や考え方を、特にInstagramを中心に教えていただきました。

まずSNSにはそれぞれのサービスに特性があり、その違いを理解して使うことが大切だそうです。例えばX(旧Twitter)は短い文章の投稿が主であり、Instagramは写真の投稿が主となっています。Xでは「リポスト」



真言宗僧侶の 行動原理と 弘法大師 の願い



弘法大師は、帰朝後さまざまな業績をあげられています。それは、大まかに祈りと実践に分けることができます。これら偉大なるご業績の理念はどのようなものでしょうか。その行動理念を確認しながら、我々青年僧侶が今後どのようなことを目指していけば良いのかを考えます。

講師 堀内規之師

群馬県高崎市・延命密院住職
大正大学仏教学部教授・博士（仏教学）
豊山派宗学研究所研究員
御室派仁和伝法所特任研究員

アーカイブ動画公開中

- YouTubeにて、無料で閲覧可能となっております。
- 公開設定を「限定」としているため、YouTubeの検索機能では表示されません。仏青Webサイトの会員向けコンテンツ内に掲載された動画を再生、または動画URLに直接アクセスした場合のみ閲覧できます。
- 会員向けコンテンツへのログインID・パスワードにつきましては、右記もしくは裏表紙をご参照ください。



(Twitter)でのリツイート)により投稿が広められる一方で、Instagramにはそういった機能がありません。また現在では多くの寺院がウェブサイトを(公式ホームページ)を持っていますが、そこには多くの情報を載せられるものの閲覧する人は限定的で、SNSのように不特定多数の人々に見られることはありません。

これらのことから両師共にInstagramはまだお寺のことを知らない人に知ってもらうチャンスと位置づけ、具体的な情報以上に言葉では伝えきれないお寺の雰囲気や写真を写真で知ってもらい、そこで興味を持った人にはウェブサイトを見てもらうという考えをお持ちでした。また川俣師はXも活用しており、そちらは拡散されることを利用して緊急性のある情報(交通や天災に関するもの等)を発信しているということでした。

SNSを使うデメリットとして多くの人が思い浮かべる「炎上」についてもお答えいただきました。そもそも炎上する要因の多くは「言葉」であり誤解を生む表現や、配慮の足りない言葉が反感を買うことから、長谷寺では投稿をする上でのポリシーを作り複数人で投稿内容をチェックしており、また長谷寺の雰囲気にもそぐわないコメントが投稿されたときは非表示にしているそうです。

個人的に気になった撮影不可の写真がアップされた時の対応については川俣師にお答えいただきました。実際に岡寺の堂内(撮影禁止)の写真も投稿されており、目についたものについては削除してもらうように直接メッセージを送るそうです。この時に大事なのもとも撮影禁止と明示していることを伝えて丁寧に注意することだと仰っていました。

私が一番印象的だったのはSNSに投稿していく上で、自分自身が楽しんでやるのが重要であるというお話です。自分自身がいいと思うもの、知ってほしいと思うことを発信することが一番伝わるという考えは深く納得させられるとともに、つい難しく考えすぎてしまう私にとっては背中を押される思いでした。

最後になりますが貴重な経験をさせていただき、会場を使わせて頂いた長谷寺様、今回の結集に関わるすべての方々に感謝を申し上げます。

寄附報告



去る1月1日に発生した令和6年能登半島地震によって被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。また、尊い命を亡くされた皆様のご冥福をお祈りいたします。

この度の災害に際して、真言宗豊山派仏教青年会が災害協定を結んでいる一般財団法人 日本笑顔プロジェクト様は、速やかに被災地に赴き、今日もなお懸命かつ継続的な復興支援活動を続けております。

先日、その代表を務められている真言宗豊山派仏教青年会元会長 林映寿師へ、支援金を直接お届けする機会をいただきました。真言宗豊山派仏教青年会 災害救援基金より150万円、豊山太鼓 千響より100万円、群馬仏教青年会より30万円をお渡ししたことを、ここにご報告申し上げます。

一日も早い被災地の復興とともに、支援に尽力されている皆さまのご安全とご健勝をお祈りいたします。

一般財団法人 日本笑顔プロジェクト Web サイト

<https://egaonowa.net>



今後の予定

令和六年度 写仏講座

- 第一回 令和六年 四月十二日(金)
第二回 令和六年 五月十日(金)
第三回 令和六年 六月七日(金)

場所 東京都文京区大塚五四十八

真言宗豊山派宗務所にて

(有楽町線護国寺駅下車徒歩三分)

受講料 千円(二回目以降)

初回のみテキスト筆代を含め二千円

時間 いずれも十三時開始 十五時終了予定

※事前のお申込みのご連絡は不要です。

※天候の影響などにより、延期となる場合がございます。なにとぞご了承くださいます。

※写仏講座の詳細につきましては、左記のWebサイトを参照ください。

豊山仏青WEBサイト 写仏ページ
<https://www.bussei.gr.jp/writing>



全日本仏教青年会

花まつり千僧法要 於 東大寺

令和六年 四月二十六日(金)

全真言宗青年連盟結集

第四十四回 醍醐大会

令和六年 十月八日(火)

編集後記

令和四年春より始まった本執行部の任期も、令和六年三月にて満了となります。本誌はその節目となりますので、二年間の活動を少しだけ振り返らせて頂きます。

初年度はコロナ禍の煽りを受け、活動規模の縮小・形式の変更をせざるを得ない状況下になりました。そのような苦難に見舞われてもなお、オンライン形式の講習会・感染症対策を徹底した写仏講座等、時代に順応した活動が出来たのではないかと感じております。

翌年はウィルスの脅威もある程度の落ち着きをみせ、様々な活動を行うことができました。中でも、豊山派単独結集総本山長谷寺大会が無魔成満に終わりましたことは、誠に喜ばしい限りです。

こうした豊山仏青の活動を皆様知っていただけけるよう、この二年間で様々な広報活動を行なって参りました。中でも『豊友』の発刊は広報次長の最も大切な役割と考えており、後世に残すべき活動記録のアーカイブとなるような紙面作りを心掛けたつもりです。バックナンバーはWEB上での閲覧も可能ですので、折を見て振り返って頂けると幸いに存じます。

最後に、『豊友』製作・誌面構成をご協力頂いた株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション様、インタビュアーや寄稿を賜りました諸師の皆様、そして全ての関係者の皆様へ感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

広報次長 木村修廣

豊山仏青Webサイト

<https://www.bussei.gr.jp>

写仏講座・千響チャリティー演奏は

豊山仏青

検索



豊山仏青Facebook

www.facebook.com/buzanbussei/



豊友お問い合わせ先

webussei@gmail.com

豊友 第178号

令和六年四月一日発行

発行人 木村修明

発行所 〒112-0012 東京都文京区大塚5丁目40番8号
真言宗豊山派宗務総合庁舎内 真言宗豊山派仏教青年会

デザイン・印刷 株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション